

身体障害者診断書・意見書（肢体不自由用）

総括表

氏 名	明治 大正 昭和 平成 令和	年 月 日生 () 歳	男 女
住 所			
① 障害名（部位を明記）			
② 原因となった 疾病・外傷名		交通、労災、その他の事故、戦傷、戦災 自然災害、疾病、先天性、その他 ()	
③ 疾病、外傷発生年月日 年 月 日・場所			
④ 参考となる経過及び現症（エックス線写真及び検査所見を含む。）			
障害固定又は障害確定（推定） 年 月 日			
⑤ 総合所見			
[軽減化による再認定 要 ・ 不要] [再認定の時期 年 月 日]			
⑥ その他参考となる合併症状			
上記のとおり診断する。併せて以下の意見を付します。 年 月 日 病院又は診療所の名称 電 話 () 所 在 地 診療担当科名 科 医師氏名 ㊤			
身体障害者福祉法第15条第3項の意見（障害程度等級についても参考意見を記入のこと。） 障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に ・該当する () 級相当 ※原則として下肢と体幹は上位等級に属する ・該当しない どちらか一方の機能障害で認定する。 ※「該当する」「該当しない」の選択及び意見等級は、必ず記載してください。			
注 1 障害名には、現在起こっている障害、例えば両眼失明、両耳ろう、右上下肢麻痺、心臓機能障害等を記入し、原因となった疾病には、角膜混濁、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入してください。 2 総合所見には、将来の障害の軽減化による再認定の必要性及び再認定を行うべき時期を必ず記入してください。 3 障害区分や等級決定のため、改めて身体障害者診断書・意見書の記述についてお問い合わせする場合があります。 4 程度変更に伴う再申請については、新しく追加となる障害内容の記載のみではなく、現在の手帳の障害内容についても障害が存在していれば、併せて診断書に記載してください。			

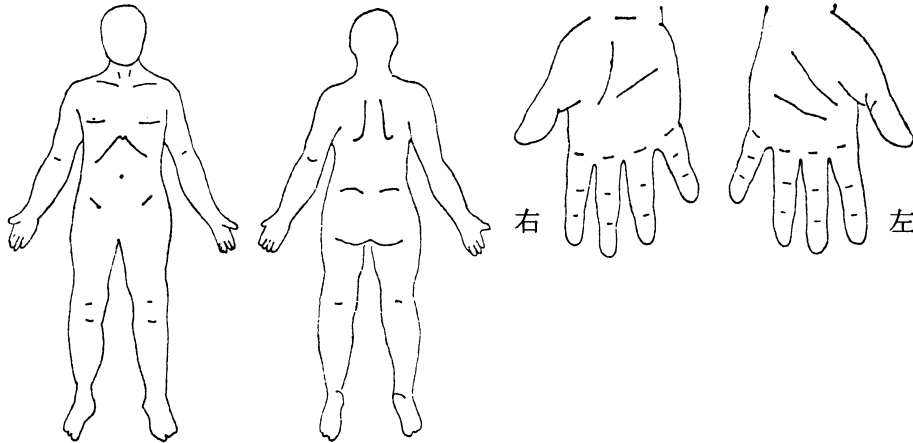
肢体不自由の状況及び所見

神経学的所見その他の機能障害（形態異常）の所見

（該当するものを○で囲み、下記空欄に追加所見を記入すること。）

- 1 感覚障害（下記図示） なし・感覚脱失・感覚鈍麻・異常感覚
- 2 運動障害（下記図示） なし・弛緩性麻痺・痙攣性麻痺・固縮・不随意運動・しんせん・
運動失調・その他
- 3 起因部位 脳・脊髄・末梢神経・筋肉・骨関節・その他
- 4 排尿・排便機能障害 なし・あり
- 5 形態異常 なし・あり

参考図示



×変形 □切離断 感覚障害 運動障害

（注）関係ない部分は、記入不要

歩行能力の程度			m
起立位			分
片脚立位	右	左	
座位	可	分・不可	

右		左
	上肢長 cm	
	下肢長 cm	
	上腕周径cm	
	前腕周径cm	
	大腿周径cm	
	下腿周径cm	
	握力 kg	

←○、△、×いずれかを記入すること。
（自立—○ 半介助—△ 全介助又は不能—×）

（注）歩行能力の程度、起立位及び座位の測定は、義肢・装具等を装着しないで行ってください。

動作・活動 自立—○ 半介助—△ 全介助又は不能—× () 中のものを使う時はそれに○

寝返りする。		シャツを着て脱ぐ。	
足を投げ出して座る。		ズボンをはいて脱ぐ。(自助具)	
いす 椅子に腰掛ける。		ブラシで歯をみがく。 (自動具)	右 左
立ち上がる。(手すり・壁・杖・ 松葉杖・義肢・装具)		顔を洗いタオルでふく。	
家の中の移動(壁・杖・松葉杖・ 義肢・装具・車椅子)		タオルを絞る。	
洋式便器に座る。		背中を洗う。	
せつ 排泄の後始末をする。		二階まで階段を上つて下りる。 (手すり・杖・松葉杖)	
はし (箸で) 食事をする。 (スプーン・自助具)	右 左	屋外を移動する。(家の周辺程度) (杖・松葉杖・車椅子)	
コップで水を飲む。	右 左	公共の乗物を利用する。	

注 身体障害者福祉法の等級は、機能障害 (impairment) のレベルで認定されますので () の中に ○が付いている場合は、原則として自立していないという解釈になります。

計測法

上肢長 肩峰→橈骨茎状突起

前腕周径 最大周径

下肢長 上前腸骨棘→(脛骨) 内果

大腿周径 膝蓋骨上縁上 10cm の周径
(小児等の場合は、別記)

上腕周径 最大周径

下腿周径 最大周径

関節可動域 (ROM) と筋力テスト (MMT) (この表は、必要な部分を記入すること)

筋力テスト ()	関節可動域	筋力テスト ()	関節可動域	筋力テスト ()
() 前屈		後屈 () 頭 () 左屈		右屈 ()
() 前屈		後屈 () 体幹 () 左屈		右屈 ()
右 () 屈曲		伸展 () () 伸展		屈曲 ()
() 外転		内転 () 肩 () 内転		外転 ()
() 外旋		内旋 () () 内旋		外旋 ()
() 屈曲		伸展 () 肘 () 伸展		屈曲 ()
() 回外		回内 () 前腕 () 回内		回外 ()
() 掌屈		背屈 () 手 () 背屈		掌屈 ()
() 屈曲		伸展 () () 伸展		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () 中手指節 () 伸展		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () () 伸展		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () () 伸展		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () () 伸展		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () 近位指節 () 伸展		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () () 伸展		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () () 伸展		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () () 伸展		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () () 伸展		屈曲 ()
() 屈曲		伸展 () () 伸展		屈曲 ()
() 外転		内転 () 股 () 内転		外転 ()
() 外旋		内旋 () () 内旋		外旋 ()
() 屈曲		伸展 () 膝 () 伸展		屈曲 ()
() 底屈		背屈 () 足 () 背屈		底屈 ()

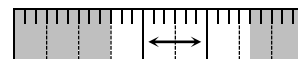
備考

- 1 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。
- 2 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会及び日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。
- 3 関節可動域の図示は、のように両端に太線を引き、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線(〰)を引く。
- 4 筋力については、表()内に×△○印を記入する。×印は、筋力が消失又は著減(筋力0、1、2該当)

- 5 △印は、筋力半減(筋力3該当)
- 6 ○印は、筋力正常又はやや減(筋力4、5該当)
- 7 (PIP)の項母指は(IP)関節を指す。
- 8 DIPその他手指の対立内外転等の表示は、必要に応じ備考欄を用いる。
- 9 図中塗りつぶした部分は、参考的正常範囲外の部分で、反張膝等の異常可動はこの部分にはみ出し記入となる。

例示

(×) 伸展



屈曲 (△)